

# 教育新聞

週2回 月・木発行

発行所 教育新聞社

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町 1-40

代表 ☎ 03(3295)7051

〔購読申し込み・お問い合わせ〕

<http://www.kyobun.co.jp/>

〔購読料・月額〕2,500円+税

©教育新聞社 2015

多賀譲治（たが・じょうじ）所長 玉川学園中学部で社会科教員、同  
 園の教育研究所、マルチメディアアリソースセンター研究員、玉川大学講師、  
 同学教育博物館研究員などを歴任。経験を生かし、遠隔学習や教材づくりに  
 携わる。中世庶民史をライフワークとし、講演活動や歴史番組の時代考  
 証を行っている。著書に『知るほど楽しい鎌倉時代』（理工図書）など。

「指切っちゃいました」  
 — ニンジンと一緒に自  
 分の指まで切ってしまった  
 少年が青ざめた顔でやって  
 きた。ボーイスカウトのキ  
 ャンプ中のことである。

ボーイスカウトは野外活  
 動を通して健全な精神と肉  
 体を育む青少年教育活動の  
 パイオニアで、100年前  
 の英国で誕生した。具体的  
 な理念や教育法をここで説

**魅力ある**  
**教師となるために**  
 多賀歴史研究所長  
**多賀譲治**

明はしないが、要するに体  
 験を通して、自分で考え、  
 判断し、行動し、人に尽く  
 すことのできる人間を作り  
 上げることが目的の組織で  
 ある。実は、今日の教育形  
 態のバックボーンである新  
 教育運動にも大きな影響を  
 与えている。

失敗するこ  
 とも大切な体

## 第1回 実体験から学ぶことこそ意味

若いリーダーが消毒薬と

これもためでは、伸びるも  
 のも伸びない。

教室での説明や語りかけ  
 は大切だが、実体験が伴わ  
 なければ中身は空疎だ。教

に教え込む。火や刃物を正  
 しく使うことは、野外生活  
 で必須のことで、きちんと  
 覚えておけばこれほど便利  
 な物はない。しかし、それ  
 でも冒頭のようなことは起  
 くる。

分の指を彫刻することはな  
 い。言葉や文字での説明は  
 大切だが、やってみないこ  
 とには分からない事柄がこ  
 の世には多い。あれもため、

れば分からないことばかり  
 で、枚挙にいとまがない。  
 実際には、こうしたことを  
 体験することで子どもの方  
 は育まれていくのだ。

その、次のステップへ進む力  
 が得られるのだ。真の成長  
 といってもよい。自分の意  
 思で汗をかき、手を汚した  
 者だけが得られるこ褒美  
 だ。

「ナイフは危ないからため」と  
 か「ボールを蹴つたら人に  
 あたるので禁止」のような  
 ことはしない。ナイフを持  
 てるのは2級スカウト（中  
 学校1〜2年生）からだが、  
 危険回避のために安全な火  
 の扱いと刃物の扱いを事前

包帯で手当てをしてから病  
 院に連れていった。本人に  
 してみれば大ごとだが、結  
 果として「刃先に自分や他  
 人の身体が絶対にあつては  
 いけない」という教訓を身  
 をもって知ることになつ

トマトは脇芽を欠かない  
 と良い実は成らない。のこ  
 ぎりの縦びきで横に材木を  
 ひくと真っすくに切れな  
 い。玄能の凹んだほうで叩  
 かないと釘は曲がってしま  
 う。消えているようでも火

ならないのである。しかも、  
 失敗を貴重な体験と考え、  
 時として見守り、時として  
 導かなければならない。ガ  
 ンじがらめのマニュアルや  
 過ぎたお膳立てで、子ども  
 の創意と工夫の芽を摘んで  
 はならない。自らの力で困

難を乗り越えていくからこ  
 だ。今からでも間に合う。  
 子どもとともにチャレンジ  
 してみるのだ。理屈抜き  
 に分かることがある。それ  
 ができる教師が子どもたち  
 とともに成長する「魅力あ  
 る人」になるのだと、私は  
 確信している。